

○事業所名	原田学園 ことばの支援センター こまつばら (放課後等デイサービス)			
○保護者評価実施期間	R7年12月22日		～	R8年1月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	73	(回答者数)	35
○従業者評価実施期間	R7年12月12日		～	R7年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	R8年1月20日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者評価では、環境面(清潔さ等)や職員対応、支援内容に関して肯定的な評価が多く、安心して通所できる基盤が整っている。こどもが安心感をもって通所し、通所を楽しみにしているとの回答も多く、支援への満足度も高い。	こどもの発達段階や特性に合わせて関わり方を調整し、安心してできる関係づくりと見通しを持てる支援を心がけている。こどもが不安を感じやすい場面では手順や流れを分かりやすく提示し、環境設定や声かけの工夫を通して安心して過ごせるよう配慮している。	非常災害訓練や各種マニュアルの実施状況について、保護者に分かりやすく伝わる周知方法(掲示・配布・発信等)を工夫し、見える化を進める。今後も利用者の状況に応じて支援内容を見直し、より安心して利用できる体制づくりに取り組む。
2	日頃の情報共有や意思疎通の配慮、相談対応など、保護者とのコミュニケーション面で肯定的な評価が多く、家庭との連携が取りやすい。	日々の様子や支援のねらいを丁寧に共有し、保護者が相談しやすい関係づくりを意識している。家庭や学校での困り事について確認し、保護者の対応や声かけの仕方を伝えたり、一緒に検討したりし、安心して子育てができるよう保護者の気持ちに寄り添った支援を心がけている。	必要に応じて家族支援プログラムの案内や相談の機会を保障し、保護者がアクセスしやすい形で提供を強化する。また、保護者が家庭で取り組みやすい声かけ・関わり方・環境設定の工夫などを具体的に伝え、家庭と事業所が同じ方向性でこどもを支え、安心して子育てができるよう支援する。
3	事業者自己評価でも多くの項目で肯定的な評価が多く、支援計画の作成・共有、記録と振り返り、研修や安全管理など運営面の安定が確認できる。	活動が固定化しないよう内容を調整し、成功体験につながる課題設定や達成感を得られる機会づくりを行っている。特に課題設定では、こどもの状況を丁寧にアセスメントし、スモールステップで成功体験を重ねられるよう課題の内容や量を調整している。	地域資源や関係機関との連携を段階的に検討し、こどもの経験の広がりにつながる機会を計画的に工夫する。今後も利用者の状況に応じて支援内容を見直し、より安心して利用できる体制づくりに取り組む。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者評価では全体として肯定的な回答が多い一方で、活動スペースの使い方や環境面についてご意見もみられた。**活動内容や利用人数によっては、より安全に落ち着いて過ごせるよう、スペース配置や環境設定の工夫を継続していく必要がある。	活動内容が多様化する中で、限られたスペースの中でも安全性と活動のしやすさを両立させる必要があり、場面によっては保護者から見て「十分ではない」と感じられることがある。	活動内容や人数に応じて、動線や活動場所の分け方を見直し、安心して過ごせる環境づくりを進める。また、保護者からの意見を踏まえ、必要な工夫を継続的に検討する。
2	地域の他児との交流機会や、保護者同士・きょうだいの交流機会に関する支援については、保護者評価で肯定的な回答が少なく、実施状況が伝わりにくい傾向がみられる。ニーズ把握や実施方法、周知のあり方を含めて検討が必要である。	交流の機会の実施や調整が難しく、実施機会自体に限られる場合がある。また、家庭ごとに交流ニーズや参加条件が異なるため、全家庭が参加しやすい形的设计が難しい。	地域資源・関係機関との連携を実施可能な範囲から進め、交流の機会を段階的に検討する。保護者交流については自由参加・短時間など負担の少ない形式も含め、希望に応じた機会提供を行う。また、実施した取組は活動報告等で分かりやすく共有し、見える化を進める。
3	事業者自己評価で、第三者による外部評価や地域に開かれた運営が課題として示されており、取組の整理と改善が求められる。	外部評価や地域に開かれた取組は、計画や役割分担、発信方法など体制整備が必要で、実施方法の確立に時間を要している。	家族支援や防災訓練等の情報を整理し、掲示・配布・SNS等を組み合わせて周知を強化する。外部評価についても手順整備と見える化を進める。